



## 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会 ニュースレター

### 被曝低減にむけて

東日本大震災から2年が過ぎました。雪の遮蔽効果によって、空間線量を示すモニタリングポストの値は夏季の1/3程度となっていますが、雪解けとともに上昇しています。学校では外遊びや屋外行事の制限が緩和されつつありますが、甲状腺エコー検査の結果が断片的に伝えられる中、保護者や子どもたちの不安の声も聞かれます。また環境省が行った青森・山梨・長崎比較調査でも、嚢胞・結節が福島の県民健康管理の結果より高い割合を示し、さらなる混乱を呼んでいます（\*注参照）。

福島県内の児童養護施設8施設には、親の養育上の問題など、様々な事情から親元に帰ることのできない子どもが生活しています。本会は、放射能の問題が施設の子どもたちに及ばないよう、外部・内部被曝のモニタリングと被曝量低減のた

めの活動を実施しています。子どもたちが居住する地域の空間線量や土壌汚染の状況は常に同じとは限りません。定期的に制度の高い線量計で測定する必要があり、そのための費用を確保することは大変困難です。

\*\*\*\*\*

本会では、日本小児看護学会による災害支援助成金を得て、2012年11月11日に福島市内の児童養護施設で働く看護師の交流会を、2013年1月23日には健康手帳に関する検討会、甲状腺エコーと尿検査に関する勉強会を行いました。青葉学園と福島愛育園の2園については、3月に卒園する子どもたちに健康手帳の暫定版を配付し、これまでの健康診査等の記録の管理などに役立てていただけるよう事業を進めています。

\*注) 調査を行った子どもたちの年齢分布にかたよりのあることと、2種類の異なる調査を合わせて集計していることが原因と考えられています。

### 目次:

ホットスポットの特定

P1

甲状腺エコー検査

P2

個人線量計による被曝量測定

P2

尿中セシウム検査の継続

P2

支援施設拡大に向けて

P3

第一回の総会・映画上映会

P3

連絡先・ご支援御礼

P4

### ホットスポットの特定

福島市内の児童養護施設では公的除染計画が進められていますが、除染後半年になる施設では雨水などの水路により新たなホットスポットができています。

本会では(株)サードウェーブに委託し、パイロット事業として青葉学園の屋内外の放射線量について、表面汚染検査計を用いて測定を行いました。その結果、普段洗濯ものを干している物干し場が1 $\mu$ SV/hのホットスポットであることを突き止めました。この場所は園庭からつながっており、子どもの遊び場となっていたので、線量低減のためにコンクリートで遮蔽することとなりました。

資金は国際大使夫人機関の代表理事満知子 Conway 氏に依頼し、チャリティコンサート等により確保しました。ホットスポットの特定のため、対象面積あたりの測定点を決め、何十か所にも分けて測定します。昨年度より、ポケット線量計で線量の高い場所についておよその見当をつけていましたので、詳細な測定の必要箇所を特定しやすくなっていました。

この事業は、青葉学園のほかに、福島愛育園の室内・屋外・通路、同法人のあすなろ保育園、堀川愛生園、いわき育英舎の建物周囲の線量を確認することができました。



公費により設置されたモニタリングポストは、各児童養護施設に(数カ所)設置されており、常時空間線量を表示しています。



コンクリートで遮蔽した洗濯物干し場

## 甲状腺エコー検査

県民健康管理調査の一つに、甲状腺エコー検査がありますが、児童養護施設の子どもたちが検査の案内が施設に来ない子どもがいます。

福島県では子どもたちへの様々な配慮から、子どもたちは住民票を現住所においたまま入所しています。そのため、住民票を基に行う当該事業では、児童養護施設の子どもは検査対象者にはなっておらず、施設の職員が

県に個別に問い合わせさせて検査を受けられるよう依頼しなくてはなりません。また学校単位の健診を受けない場合は遠隔地まで行って検査を受けねばなりません。

この問題を解決するために、超音波診断装置を購入し、ボランティア医師による甲状腺エコー検査を開始しました。この活動にいち早くご賛同いただきました小澤先生のお名前を頂戴し、プロジェクト名としております。

## 小澤道子プロジェクト

県民健康管理調査による甲状腺エコー検査の対象外となっている子どもたちのために、甲状腺エコー検査を実施しました。甲状腺エコー検査の結果によって、再検査や受診の指示が決められていますが、5mm以下の結節、20mm以下ののう胞については、2年後に甲状腺のエコー検査を行う、となっています。

判定結果については、のう胞の大きさで4段階を表す記号のみ知らされ、のう胞の大きさや部位については個人への情報公開は未だにない状態です。

のう胞や結節が見つかった場合、次の検査までの期間に、治療が必要な状態へと進む可能性があることなどを考えると、半年～1年に1回はフォローアップの検査が必要といわれています。そこでA-2判定を受けている子どもと若い女性職員も対象として、のう胞の大きさと部位の特定を行いました。今回の検査結果は、次回の検査や今後治療が必要となった時に大変重要なものとなると思います。

## 個人線量計による被爆量測定

福島市では、小中学生を対象とした個人被曝線量測定事業を予定していましたが、住民票が福島市内にない施設の子どもは対象外となっていました。

市の広報でこの事業に気づいた本会澤田が施設に確認し、園長を通して市の児童家庭課に福島市内の他の2施設もあわせて個人線量計が配布されない現状を説明しました。しかし市の対応には時間がかかり開始月には個人線量計の配付ができ

ないことが判明しました。そこで、本会が個人線量計の測定のために利用していた長瀬ランダウエアのクイックセルバッチを申込み、青葉学園33名、福島愛育園52名の子ども分を負担して前年同時期に測定をして比較できるように支援しました。引き続き、このような公的事業から児童養護施設が対象外とならないよう、関係部署に働きかけたいと思います。

## 尿中セシウム検査の継続

放射性物質は空気や水、食物を通して体内に取り込まれると考えられています。尿中セシウム検査は、尿中に排出される量から、体内に取り込まれた放射性

セシウムの量を推定する一つのめやすとして重要なものです。しかし、一日の尿をペットボトルで最低500ml程度溜める必要があり、蓄尿の方法や管理など、

## 第4号

年少の子どもは児童養護施設の看護師や先生方の理解・協力が不可欠です。

放射性セシウムが検出された職員については、本会澤田が施設の看護師や職員らと共に、食事や生活についてアドバイスをしています。

2012年4月から8月の尿検査で、一定以上の放射性セシウムが尿中から検出された人について、確認のための2回目の検査を職員9名、児童14名に実施しました。全員が前回検査時よりも尿中セシウム量は

低減していましたが、低減幅が少なかった人については、引き続き指導・アドバイスをを行いました。前回実施しなかった中学生・高校生5名、新たに支援を開始した堀川愛生園、いわき育英舎の職員19名にも検査を実施し、内部被曝の実態把握を行うと同時に、食事・生活、食品の放射線量測定的重要性について確認を行いました。4月から再検査も職員の再検査や新規の職員や子どもの検査を引き続き検査を継続していきます。



**ペットボトルにためられた尿**  
尿中セシウム検査は、飲水量等で尿量も変化するため、1回の検査のみで判断せず、継続的・定期的に検査を行う必要があります。

## 支援施設拡大に向けて

福島市内2施設、東白川郡1施設、いわき市内1施設で内部被曝モニタリングのための尿中セシウム検査（内部被曝量の把握）と食事・生活に関するアドバイス、ポケット線量計（小舎毎の測定）、クイックセルパッチ（個人の線量測定）による外部被曝量の測定を行いました。施設の食事からの内部被曝量を低減するために、食品放射能測定器測定室設置への支援、さらには低線量被曝に関する勉強会を開催してきました。

今後はさらに福島県内の4施設に対しても同様の支援を行う予定ですが、被曝に関する情報を得ることで、若い職員の離職につながることを懸念している施設もあり、

問題の複雑さを感じています。本会では、行政の目の届きにくい児童養護施設に特化し、子どもたちの健康を守ることを第一目標に活動してきましたが、各児童養護施設の個性や特徴なども踏まえて、より一層細やかな事業展開が求められているといえるでしょう。

原発の事後処理が終了するまでには、まだまだ多くの年月を要すると考えられています。震災から2年が経過しましたが、様々な支援の届きにくい児童養護施設の子どもたちの健康が、20年、30年後も守られることこそ真の復興であると信じて活動を続けてゆきたいと思います。

## 第一回の総会・映画上映会を開催しました

2013年2月23日に福島市内にて本会第一回目の総会を開催しました。総会では昨年度の事業報告と共に、今年度の事業説明を行い、引き続き事業を継続・拡大することをご承認頂きました。

また会員制度は、一般会員を①議決権のある正会員と②会費を納入して支援していただく賛助会員の2種類にするという定款改定を行いました。その他団体の賛助会員は従来通りです。

総会後には福島愛育園園長の齋藤先生より、児童養護施設の子どもの現状についてご講演頂きました。施設の専門職として40年

にわたって子どもを育ててきた先生は、「子どもの成長発達にとって必要不可欠なのは、親の愛情と大地に触れ草木花を知り、自分の存在がゆるぎないものであることを確信すること。しかしそれがふたつとも失われている」というお話を伺いました。ご講演後の映画上映会では、児童養護施設からフランスへ養子となった韓国人監督イ・チャンドン氏の「冬の小鳥」を鑑賞しました。幼い子どもの体験する喪失と再生の物語を通して、子どもたちへの理解を深めることができました。



映画「冬の小鳥」は日本では2010年に岩波ホールで上映されていて、様々な賞を受賞しています。児童養護施設の卒園生から齋藤先生へ、「施設の子どもの気持ちをよく描けている」と、紹介されたものだそうです。



## 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

共同代表 澤田和美（元武蔵野大学看護学部 教授）  
丸 光恵（東京医科歯科大学 国際看護開発学 教授）  
副代表 塩飽 仁（東北大学大学院 小児看護学 教授）

### 事務所住所・連絡先

〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5  
メゾンオーブC203  
e-mail: fukujidou@yahoo.co.jp  
電話：024-573-2939

### ご支援先

♡ゆうちょ銀行  
店名：二二九店（店番号229）  
種類：当座預金  
番号：02220 - 2 - 118684  
名称：福島児童養護施設の子どもの健康を考える会

ホームページもご覧ください  
<http://www.fukujidou.org>  
(2013年4月開設予定)

### ♡大東銀行

店名：福島西支店(店番号047)  
種類：普通預金  
番号：1303901  
名称：福児童 代表 澤田和美

## 会費の納入および寄付・未使用切手のご寄附を頂きました。

ありがとうございました。（2012年10月～2013年3月20日迄 順不同・敬称略）

渡辺めぐみ 松浦英美 名古屋東教会 木下晃子 日本キリスト者医科連盟関東部会 内丸ちづこ 小澤英輔 臼井美帆子 坂牧実 西千葉教会いずみ会 小笠原保子 湯浅資之 池住義憲 前川香子 鈴木千衣 池田むつみ 上田睦子 澤田耕治 鈴見郁子 松平信子 武藤房枝 糸柳尚子 犬塚茂生 猪熊京子 田口恵美子 高木史江 長畑左樹子 立川明郎 上清水温子 福島洋子 松岡恵 秋山道子 武井めぐみ 舛岡泉 間野聡子 和田信明 村川佳代 清野美紀子 別宮千織 宮原多枝子 今泉郷子 牛尾幸世 橋場みき子 原岡潔 佐野むね 原田雪子 桃井紀子 馬場隆 津山春香 津山夏維 塩飽仁 藤田武夫 澤田和美 丸光恵 名取智子 田中哲夫・好子 安間ちよう子 中島隆宏・祐子 石本強 山田和子 二宮彩子 沖奈穂子 志賀由美 佐野尚子 村上瑛一 齋藤久夫 清水清美 佐々木晴美 秋山道子 西千葉教会 名古屋YWCA 下落合教会学校 川口恭子 小林好美子 鈴木敏夫 徳永瑞子 ヒャクタクイチロウ 神戸信行 石川信克・典子 川原啓美 木下逸枝

## 本会の活動に対して下記の団体の助成金・ご支援を頂きました

### ○あんのん基金

内部被曝のモニタリング（尿中セシウム検査）事業  
<http://www.nichiren.or.jp/annon/20130204-131/>

### ○フクシマススムファンド

児童養護施設で暮らす子どもの健康管理と各種記録・証明となる健康手帳の作成・研修事業  
<http://fukushima-susumu.jp/houkoku>

### ○日本小児看護学会 災害支援助成金

看護師協議会、健康手帳

### ○公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会

甲状腺エコー検査、個人線量計着用経費、食品放射能測定器測定室設置事業

### ○鶴田くに奨学基金ビヨンドXプロジェクト

ポケット線量計、食品放射能測定器測定室補強事業(予定)

### ○地球と暮らしを考える会・高山

食品放射能測定室内装工事、放射線測定器一式

